宇城市の魅力発掘とその効果的な発信に ついて

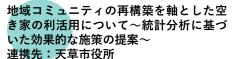
連携先:宇城市役所

私たちは、宇城市役所で行われている 子育て層の定住を目指す取り組みで何が 効果的であったか、また子育て層の定住 を促す上で効果的な情報発信方法をデー タを基に分析し、宇城市役所に提案する という取り組みを行っています。

今後は、SNSなど様々なデータを分析 し効果的な取り組み

と情報発信方法の発 見を目指します。

(飯島研究室)



私たちは天草市役所·株式会社CASEと 連携し、地域コミュニティの再構築を目 的とした空き家の利活用に関する研究を 行っています。具体的な取り組みとして、 牛深地域への現地訪問、地元高校生や移 住者を対象としたアンケート調査などを 進めています。これらの活動を通じて、

空き家を活用した 新しいコミュニティ づくりを検討してい

(飯島研究室)

大学生における臓器提供意思表示向上に 向けた普及啓発活動

<mark>連携先:公</mark>益財団法人 熊本県移植医療 推進財団

私たちは、公益財団法人熊本県移植医 療推進財団と連携し、大学生の臓器提供 意思表示向上を目的とした普及啓発活動 を行っています。現在、学内で臓器提供

意思表示に関するアンケートを行ってい

ます。また、10月には市民公開講座へ

の参加、県大川のグリーンライトアップ 学食での臓器提供 意思表示啓発活動 を予定しています。

(吉田研究室)



やまが和栗の知名度向上に関する研究 連携先:山鹿市役所

私たちは山鹿市役所農業振興課と連携 して山鹿和栗の知名度のための手法につ いて研究しています。主な活動内容は 「山鹿和栗スイーツフェアの舞台裏」と いうテーマで特集記事を作成するため、 スイーツフェアに携わる方々へ取材を 行っています。これにより他地域の栗と の差別化を図り、知名度向上に繋げるこ とを目標として います。

(井寺研究室)

する研究



令和6年度

地域連携型学生研究

活動紹介

空き家所有者への効果的な意識改革に関

連携先:宇城市役所

私たちは宇城市役所と連携して空き家 バンクを開設しており、本年は空き家バ ンクのデータ解析をもとに「売れる空き 家」を明確化することを目的としていま す。そして、空き家を所有し続けるデメ リットについてや模型を利用して空き家 の改修について知ってもらうイベントの 開催を予定して



SNSを活用したローカル・コミュニ ティの活用 <mark>連携先:天草</mark>市役所

私たちは、天草地域の若者の地元志向 を高め、UIターンを促すことを目的に 活動を行っています。本活動では、SN Sを活用し、高校生や地元企業の方々に 天草に関する情報を発信していただいて います。加えて、企業訪問バスツアーを 開催し、天草出身の若者が地元への愛着

を深めることが できるようなコ ミュニティの形 成を目指してい

(井寺研究室)



外国につながる子どもたちを対象とした 地域の日本語教室における取り組みの改 善と支援者ネットワークの構築 連携先: 熊本市国際交流振興事業団

2022年度より本学と他機関とが共同運 営している「おるがったキッズ」(年少 者を対象にした日本語教室)には、運営 面や活動面において課題が散見されます。 本研究グループでは、教室の関係者を対 象に調査を行った後、結果をもとに関係 者間の円滑な情報共有のためのネット ワークの構築、

運営方法の改善 に取り組みます

(秋葉研究室)

運動公園の利用促進に関する研究一新た な利用法を通じた魅力発信に関して一 連携先:熊本県スポーツ振興事業団

私たちは、熊本県スポーツ振興事業団 の方々と連携し、熊本県民総合運動公園 の知名度の向上、来客数増加を目的とし てイベントを計画しております。運動公 園には大会で使用されている施設以外に も、バラ園やちびっこ広場など日常的に 楽しめるエリアが多々あるため、今回の

企画を通して魅力 を伝えていきたい と思います。

(小薗研究室)



宇土市網田地区における将来ビジョンの 策定と実施 連携先:宇土市役所

JR三角線の網田駅は、県内最古の木造 駅舎であり、国の登録有形文化財に登録 され、地元のNPO法人網田倶楽部により 管理運営されています。今年は、駅舎の 耐震改修工事中であり、工事中であって も駅舎や網田地区の魅力をどのように発 信することができるのか、宇土市商工観 光課・まちづくり推進課と連携して検討 しています。

(柴田研究室)

阿蘇の草原で整う。草原で行うアクティ <mark>ビティが、</mark>気分や睡眠の質、認知機能に <mark>およぼす効</mark>果ー室内でのアクティビティ との比較ー

連携先:熊本県県北広域本部阿蘇地域振興局

現在、阿蘇では人手不足や放牧の減少、 草原の活用機会の減少などで草原の手入 れが行われないことが問題となっており、 草原の維持が困難になっています。本活 動では草原の活用機会に注目して、阿蘇 地域振興局と連携し草原で行うアクティ ビティと心身の健康の保持増進の関連性

を検証し、草原の 新たな価値を見出 すことを目指して います。

(松本研究室)